

株式会社平安オート 2017年

環境活動レポート

(対象期間:2017年1月1日~2017年12月31日)



発行日 2018年 2月 1日

1 組織の概要

事業者名及び代表者名

株式会社 平安オート
代表取締役社長 武田 勝典

所在地

本社・工場: 〒601-8354 京都市南区吉祥院仁木の森町22番地
販売センター: 〒601-8351 京都市南区吉祥院這登西町40番地
メディア事業部: 〒601-8354 京都市南区吉祥院仁木の森町4番地-1

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先(電話番号等)

環境管理責任者 代表取締役会長 武田 勝利
連絡担当者 フロント主任 デラモス 昌子
連絡先: TEL:075-661-0750 FAX:075-672-6461

事業活動の内容(認証・登録範囲)

自動車の整備、販売及びメディア事業

許可等

内容	番号
自動車分解整備事業所	認証番号 大陸整認京第168号
指定自動車整備事業所	指定番号 大指京第275号
古物商許可証	許可番号 第5828号

事業の規模

売上高 1,303 百万円/年(H29年)
全従業員 30 名(H29年)
資本金 3200 万円
創立 昭和48年3月2日

事業組織

面積:m ²	本社	販売センター	メディア事業部
事務所床面積	115	180	20
工場面積	444		
倉庫床面積	35		
駐車場面積	672	200	
従業員 名	22	7	1
認証・登録	取得済	取得済	取得済

施設及び設備等

設備等	数量
車検用設備	1式
整備用リフト(電動)	5セット
コンプレッサー	1台(3.7Kw)
タイヤチェンジャー	1台
ホイールバルンサー	1台
エンジン洗浄機	2式
少量危険物貯蔵庫	1箇所(届出済)

過去3年間の環境負荷の実績

	単位	2015年	2016年	2017年
二酸化炭素の排出量	Kg-CO ₂	119,828	116,430	120,369
廃棄物の排出量	t	88	94	106
水の使用量、排水量	m ³	690	693	695
化学物質の使用量	kg	6.5	8.2	0.0

※電力の排出係数:2015・2016年-0.450kg-CO₂/kwh、2017年-0.509kg-CO₂/kwh

※二酸化炭素排出量には、目標未設定のLPG消費量分も含む。

株式会社平安オート 環境方針

環境理念

株式会社平安オートは、自動車整備、販売に携わる事業者として環境問題は、避けては通る事の出来ない重要課題であり、特に二酸化炭素排出量の削減や燃料消費の向上、排出ガス低減に向けた整備技術の向上や、新エンジン搭載の低公害車の販売をするなど企業活動のあらゆる面で、地球環境の保全に配慮して行動します。

基本方針

当社は、京都議定書の発行の地である京都において事業展開をしている。「地球環境を守ろう」をスローガンに、自ら責任を持ち全従業員あげて環境負荷の低減に配慮した活動に取り組むため以下の「環境方針」を定めます。

1. 環境関連法規等を遵守します。
2. 当社は、次の環境活動を計画的に取り組み実施します。
 - ☆ 事務所及び整備工場での電気使用量及び化石燃料使用量を減し、CO₂の排出量を削減します。
 - ☆ 事業上の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより事務用品や自動車部品のリサイクルを推進し、廃棄物を削減します。
 - ☆ 整備工場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。
 - ☆ 自動車整備工程で使用する化学物質の適正使用と管理に努めます。
 - ☆ 環境に配慮した自動車整備及び販売を積極的に推進します。
 - ☆ グリーン購入の拡大を推進します。
3. この環境方針は全従業員に周知、徹底します。

2011年 1月 1日

代表取締役社長

沖日 勝典

3 環境目標とその実績

2014年から2016年の3カ年の実績の平均値を基準値として、2017年度から2019年度までの目標を下記の通り設定し、環境活動に取り組んでいます。尚、このレポートでは、2017年1月から12月までの運用実績について取りまとめました。

中長期

方針	取組項目	年度	2014年～2016年 (3ヶ年平均)	2017年度		2018年度		2019年度	
		単位等	(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)
事務所及び整備工場での電気使用量及び化石燃料使用量を減し、CO ₂ の排出量を削減します。	電力消費量の削減	削減% (対基準値)		0.5%	-1.4%	1.0%	-	1.5%	-
		消費量 (kwh)	102,830	102,316	104,240	101,802	0	101,288	0
		CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	52,340	52,079	53,058	51,817	0	51,555	0
	ガソリン消費量の削減	削減% (対基準値)		0.5%	9.7%	1.0%	-	1.5%	-
		消費量 (kwh)	25,954	25,824	23,432	25,694	0	25,564	0
		CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	60,256	59,955	54,402	59,653	0	59,352	0
	軽油消費量の削減	削減% (対基準値)		0.5%	5.0%	1.0%	-	1.5%	-
		消費量 (kwh)	4,398	4,376	4,179	4,354	0	4,332	0
		CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	11,541	11,483	10,968	11,425	0	11,368	0
	二酸化炭素排出量の削減	削減% (対基準値)		0.5%	4.6%	1.0%	-	1.5%	-
		CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	124,137	123,516	118,428	122,896	0	122,275	0
	事業上の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより事務用品や自動車部品のリサイクルを推進し、廃棄物を削減します。	リサイクル率の向上	向上% (対基準値)		0.5%	0.3%	1.0%	-	1.5%
(%/年)			97.8%	98.3%	98.2%	98.8%	-	99.3%	-
整備工場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。	事業所利用水の節水	削減% (対基準値)		0.5%	1.0%	1.0%	-	1.5%	-
		(m ³ /年)	702	698	695	695	0	691	0
	油水分離槽の適正管理	(回/年)	2	2	2	2	0	2	0
自動車整備工程で使用する化学物質の適正使用と管理に努めます。	化学物質の適正管理	(回/年)	2	視をする。	0	視をする。	0	2	0
環境に配慮した自動車整備及び販売を積極的に推進します。	環境配慮整備の拡大	増加% (対基準値)		0.5%	9.5%	1.0%	-	1.5%	-
		(件/年)	646	649	707	652	0	655	0
グリーン購入の拡大を推進します。	グリーン商品の積極的購入	(件/年)	12	12	12	12	0	12	0

目標の説明や補足事項

- 1 購入電力の排出係数は、0.509kg-CO₂/kWh(2015年度関西電力実排出係数)とする(基準値のCO₂換算にも使用)
- 2 廃棄物排出量は、事業所からの廃棄物のリサイクル率で管理する
- 3 水使用量については、事務所、作業所における水使用量の削減について実施する
- 4 「油水分離槽の適正管理」は、油水分離槽の点検及び清掃とする
- 5 「化学物質の適正管理」は、有害化学物質及び適正使用の確認等とする
- 6 グリーン購入は、当面事務用品について取組む
- 7 上記の目標のほか、作業現場の環境及び品質安全向上のために3S活動(整理、整頓、清掃)に取り組む

4 環境活動計画

方針	取組項目	活動計画の内容	責任部門・担当者
事務所及び整備工場での電気使用量及び化石燃料使用量を減し、CO ₂ の排出量を削減します。	電力消費量の削減	① 不用時の消灯 ② 機械設備・OA機器などのスイッチオフ ③ エアコンの温度管理(夏季28°C±1°C) (冬季20°C±1°C)	事務局デラモス昌子
	ガソリン消費量の削減	① 不要積載物の有無、タイヤ空気圧の確認 ② 暖機運転・アイドリングストップ ③ 代車の効率的な使用	整備部門奥村 稔
	軽油消費量の削減		
事業上の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより事務用品や自動車部品のリサイクルを推進し、廃棄物を削減します。	リサイクル率の向上	廃棄物 ① 使用済みコピー用紙を再利用する。 ② 無駄な資機材を購入しない。 ③ 廃棄物を分別し、リユース・リサイクルを徹底する。 (廃品回収への協力や回収業者に持ち込む。)	整備技術板谷 武志
整備工場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。	事業所利用水の節水	① 無駄のない効率的な洗車をする。 ② 水を流しながらの洗い物はしない。	整備部門板谷 武志
	油水分離槽の適正管理	① オイル吸着材等の設置確認 ② 油水分離槽の点検及び清掃	
自動車整備工程で使用する化学物質の適正使用と管理に努めます。	化学物質の適正管理	① 有害化学物質及び適正使用の確認等	整備部門板谷 武志
環境に配慮した自動車整備及び販売を積極的に推進します。	環境配慮整備の拡大	① 定期点検などエコ整備件数等	整備部門一井 伸之
グリーン購入の拡大を推進します。	グリーン商品の積極的購入	① 物品の購入時にグリーン商品の有無を確認	整備部門一井 伸之

取組の紹介

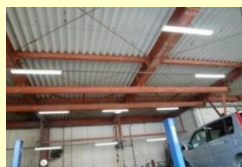
電気使用量の削減対策として、工場・事務所の照明をLED照明に代替をした。

タイヤ交換の内製化による委託業者への運搬業務がなくなり化石燃料を削減した。



工場照明のLED化

事務所照明のLED化



タイヤチェンジャーとバランサーの交換

5 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

方針	取組項目	年度	2017年度		取組の評価	担当責任者			
			(目標)	(実績)					
事務所及び整備工場での電気使用量及び化石燃料使用量を減し、CO ₂ の排出量を削減します。	電力消費量の削減	削減% (対基準値)	0.5%	-1.4%	事務所のLED化効果と節電行動が徹底できたが、総在庫台数増加により若干増加した。	事務局 デラモス 昌子			
		消費量	102,316	104,240					
		(kg-CO ₂)	52,079	53,058					
	ガソリン消費量の削減	削減% (対基準値)	0.5%	9.7%		当初の予定を上回る成果が上がった。社用車のハイブリット化に加え、軽自動車などの低燃費車への更新を進めている。軽油についても、積車の状況を反映するものではあるが、大幅な削減ができた。	整備部門 奥村 稔		
		消費量	25,824	23,432					
		(kg-CO ₂)	59,955	54,402					
	軽油消費量の削減	削減% (対基準値)	0.5%	5.0%			当初の予定を上回る成果が上がった。社用車のハイブリット化に加え、軽自動車などの低燃費車への更新を進めている。軽油についても、積車の状況を反映するものではあるが、大幅な削減ができた。	整備部門 奥村 稔	
		消費量	4,376	4,179					
		(kg-CO ₂)	11,483	10,968					
	二酸化炭素排出量の削減	削減% (対基準値)	0.5%	4.6%				当初の予定を上回る成果が上がった。社用車のハイブリット化に加え、軽自動車などの低燃費車への更新を進めている。軽油についても、積車の状況を反映するものではあるが、大幅な削減ができた。	整備部門 奥村 稔
		(kg-CO ₂)	123,516	118,428					
	事業上の廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより事務用品や自動車部品のリサイクルを推進し、廃棄物を削減します。	リサイクル率の向上	向上% (対基準値)	0.5%					0.3%
(%/年)			98.3%	98.2%					
整備工場から排水する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での節水に努め、水の使用量を削減します。	事業所利用水の節水	削減% (対基準値)	0.5%	1.0%	トイレの節水型への入替効果もあり、節水ができていて、予想以上の成果が出ている。				整備部門 板谷 武志
		(m ³ /年)	698	695					
自動車整備工程で使用する化学物質の適正使用と管理に努めます。	油水分離槽の適正管理	(回/年)	2	0	洗車による砂などの汚れで、油類は問題ない。	整備部門 板谷 武志			
		化学物質の適正管理	(回/年)	監視をする。					0
環境に配慮した自動車整備及び販売を積極的に推進します。	環境配慮整備の拡大	増加% (対基準値)	0.5%	9.5%	お客様とのコミュニケーションを図り、整備点検件数が向上している。	整備部門 一井 伸之			
		(件/年)	649	707					
グリーン購入の拡大を推進します。	グリーン商品の積極的購入	(件/年)	12	12	同価格帯の商品はグリーン購入を実施している。さらにタイヤやオイルの自動車関連商品を重点的に努める。	整備部門 一井 伸之			

次年度の主な取組内容

現施設での環境投資も限界に達しており、従業員の一人ひとりの取組による改善が重要になってきている。このため、従業員一人ひとりの意識向上を図るための環境教育に力を入れたい、

6 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反、訴訟はありません。又、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘はありません。

適用される法規制等と遵守状況

法規制等の名称	該当する要求事項	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	適正処理
騒音規制法	対象特定施設の届出、規制値の遵守	遵守
振動規制法	対象特定施設の届出、規制値の遵守	遵守
消防法	対象危険物保管の届出	遵守
水質汚濁防止法	濁水発生の防止	適正処理
自動車リサイクル法	自動車修理及び廃車の届出・管理。排出	適正処理
フロン排出抑制法	第1種特定製品の簡易点検	遵守

注：適用される法規制等と遵守状況は、環境関連法規等の遵守状況のチェック結果に基づき記載します。

7 代表者による全体の評価と見直し結果

[目標の達成状況] [活動計画実施状況]

2017年は、電力消費量、廃棄物のリサイクル目標を除き、全ての目標を達成をすることができた。リサイクル率も高く設定していることもあり、概ね満足できる成果をあげることが出来た。さらに、ガソリン燃料の削減が顕著で、二酸化炭素の9.7%の削減に大きく寄与している。これらは、従業員みんなの環境取組の成果であり、感謝したい。今後もこの取組姿勢を維持し、よりEA21システムのレベルアップをしてほしい。

[環境経営システムの運用状況等]

引き続き、定期会議時に、積極的な環境取組の提案をテーマとする。

[利害関係者の苦情・要望事項]

引き続き、お客様の気持ちになって、環境にやさしい点検整備を行う。